

サケの人工ふ化体験報告

水辺協開西小の山川校長

帯広川伏古地区子ども水辺協議会(関川三男会長)の特別講演会が11月28日、帯広市内の西十号会館で開催された。帯広開西小の山川修校長、元さけ・ますセンター帯広事業所長の石垣章さんを講師に招き、参加者38人がサケの人工ふ化や歴史について学んだ。

山川校長は10月5日に同



サケの人工ふ化体験について語る山川校長

校で行った「サケの人工ふ化体験会」の様子や意義を説明。受精卵が順調に成長していることを報告した。さらに「児童だけではなく教員も興味深く観察している」と述べた。

石垣さんは、サケの生物学的な分類や繁殖、十勝川での人工増殖の歴史について解説した。

「サケが母川(ぼせん)へ回帰することはよく知られているが、生まれた日を指して戻ってくる」との説明に会場からは驚きの声が上がっていた。

関川会長は「地域の多様な組織や専門性を持つ人たちが連携することで、十勝の地域教育や生涯学習が盛んになればうれしい。地域の人たちが、小学校を核とした明るい地域づくりにつなげていければ」と話していた。

(川野遼介)